



晩学の趣味へ命の灯を点す
墨と水と紙と筆の出会いに
魅せられ、継続は力なりと頑
張っていますが、
晩成の追肥が効かぬ趣味の
道と筆致豊かな会心の作が出
来ず、ストレスになることも
しばしばです。
しかし、
老いの趣味恥をかきかき汗
を拭くと力まずに、もう傘寿
まだ傘寿と残り火を掻き寄
せ、脳の錆を落とすつもりで、
晩年の心を染める墨絵の筆を
執りたいと思っています。
趣味いつか生き甲斐となり



八女市吉田
安達 昇

八女筑後看護専門学校の卵 ⑤

2月には看護学校生活の集大成ともいえる2つの試験があります。各県単位で行なわれる准看護師資格試験と、全国11か所（九州は沖縄を除き福岡）で行なわれる看護師国家試験です。

昨年度の厚労省の統計によると准看護師受験者は約1万人で合格率は、98.9%、看護師受験者は約6万人で合格率は88.5%です。試験はどちらも年に1回しか行われませんので、不合格の場合は就職にまで影響してくるので大変です。

受験準備に取り掛かるのは2年生になってからですが、臨地実習が11月末までありますので、本格的な受験勉強は12月からになります。年が明けての1～2月は学生の顔つきも変わり、学校全体がピリピリとした雰囲気の中に包まれます。学生は勿論、教師たちも全員合格を目標に試験対策として補習講義をしたり、年に数回の模擬試験なども行ったりしてきました。

全てが堅実に計画的に勉強できる学生ばかりではなく、中には「なんとかなるさ」と楽天的なタイプの者や、中々スイッチが入らないのんびりタイプの者、父親や母親などの家事も両立させながら勉強したくてもできない学生も居て教師もそれぞれに合わせた指導が必要になります。

試験の日が近づくにつれ不安が増し、日頃の実力を発揮できない者がいたりするので「チューター制」（少人数指導）を取り入れて精神面でのサポートも怠りません。かって「4当5落」など受験の場合によく聞かれる言い伝えがありました。4時間寝れば合格、5時間寝れば落ちるということですが、今は、睡眠不足が脳の記憶力に悪影響を与えたとの学説も解明され、少なくとも6時間の睡眠は必要とされるようになりました。

ともあれ心の平静さと健康状態を保つ両面が大切な時で、晴れて3月の准看護師、看護師の誕生が待たれるところです。

副学校長 高治 智美



八女茶で健康 第30回 福岡県・江蘇省友好茶会の開催

昨年12月24日（日）、中国江蘇省蘇州市で「福岡県・江蘇省友好提携25周年記念事業」が開催されました。蘇州市は、上海の西方にあり、旧八女郡と同程度の緯度にある温暖な土地です。この事業は、文化、青少年、教育、経済、環境など幅広い分野において進められているもので、本年は、記念事業として「福岡県・江蘇省友好茶会」が行なわれました。友好茶会の記念式典では、小川福岡県知事や県議会議員等長のあいさつがありました。

このあと福岡県茶生産組合連合会の仁田原事務局長が八女茶は、約600年前、蘇州市にある霊巖山寺で修業した栄林周瑞禅師が茶の種と製法を持ち帰ったことに始まり、現在は日本の銘茶産地となっていることを中国政府関係者に報告し、茶生産者として悠久の時を超えた感謝の気持ちを伝えました。

茶会では、福岡県から八女産抹茶、中国側から釜炒り緑茶の「洞庭山碧螺春」が呈茶されました。「碧螺春」という名前は、蘇州市太湖にある洞庭山で産する高級茶を清の第4皇帝「康熙帝」（こうきてい）が命名したものです。

福岡県茶生産組合連合会事務局長 仁田原 寿一



野鳥ウォッチング ⑦

コガモ(オス)

北から渡ってくる小型のカモで日本に飛来するカモの仲間では一番小さい。

他のカモと行動を共にすることもあります。

「ピリッ、ピリッ」と甲高い声で鳴きます。

矢部村 栗原 浩暢



矢部川源流・杣の里の四季 ⑦⑥ ヤブツバキ(藪椿)[ツバキ科]

花は冬から早春にかけて咲く。ちなみに「お茶の木、もツバキ科、おしべがよく似ている。ツバキの種子は油を大量に含んでおり、ツバキ油は薬用、食用、灯用、化粧に利用でき、葉は民間薬として、また乾燥した花は滋養強壮に健康茶としても利用できる。特にツバキ油は髪油として有名。

黒木町 松尾 重根



クラッシー文芸

■紫苑句会

この潮の冷えがなにより海苔の簀 堤 多鶴子
冬かもめ我がもの顔に日本海 松延みさと
大阿蘇の落暉に映ゆる枯芒 井上トシ子
一人居の聖夜なすべき事もなし 牛島景子
藪の中ひとときわ朱く烏瓜 中島正美

■黒木町くすの実句会

寒夜には申し分なし閑心 吉泉守峰
ひとりずつ記憶薄れて煤払ふ 松尾アサ子
木洩れ日や母の居さうな葱畑 杉尾満留美
さよならを言ひて被りぬ冬帽子 青木早弓
海鳴りや山の女の冬の宿 野崎満智子
TUTAYAにてひとりの時間日記買ふ 寺田睦子

■睦会

寒紅をばかし夫とディナーショー 東野容子
悴みし嫁の手さする床の母 松尾美喜
聖樹なる電氣うなぎの点灯す 大坪栄子
行く年や万物万象我が師なり 城戸和子
気ぜはしく何をしたかや日短 松尾貞義
紅椿腰たおやかに夢二の絵 大田真紗子
蟠りとけて一献温め酒 伊藤幸子
島猫のもの知り顔に日向ぼこ 穴見ミキエ

■立花短歌会

紅のガマズミの実のあざやかに夕日に映えて 野中裕政
里山の秋 松尾ミサキ
暖かき小春日乞うもなまり雲雨かあられかそ 松尾ミサキ
れとも雪か 鶴 隆治郎
妻出かけ昨夜の煮物温める悲しくもあり楽し 橋本泰州
くもあり 井上 精
寒くなる都度出し揃えたる暖房器寒い予報に 中島睦美
さらに買い増す 橋本泰州
雪降ると予報聞きつつ朝食に温めなおしの 井上 精
だご汁する 中島睦美
温かい外の日射しを受けながら庭の落ち葉を 中島睦美
掃いて集める 中島睦美
窓ぎわのぼかぼかぬくぬくこんな日は日なた 櫻木敦子
ぼつこの猫になりたし 田中たつじ
暖かき冬の陽受けて干し柿は網に入れられ軒 樋口愛子
端に揺れる 鶴 邦子
お陽様のぬくもり背にして柿をむくシッポふ 樋口愛子
りふり猫も暖とる 樋口愛子
お迎えを頼まれた園の二日目はやっぱりママ 樋口愛子
がよかったと言う